



総合的な学習の時間の授業 (6年生)

古里小学校は、昨年「東京都人権尊重教育推進校」の発表を行いました。今年度、奥多摩町の研究指定校として2年目を迎え、人権教育を基盤として、どの児童も学校が楽しいと思ってもらえるよう、主題を「心ときめく授業づくり」授業のユニバーサルデザイン化を通して、「と設定し、研究を進めました。

研究を進めるに当たり、教科を体育科、外国語活動、総合的な学習の時間の3つに絞り、計7回の授業を実施いたしました。授業のユニバーサルデザイン化を進める上で、大切



第215号
発行
奥多摩町教育委員会

平成31年3月1日現在

児童数	142名
生徒数	75名
教職員数	48名

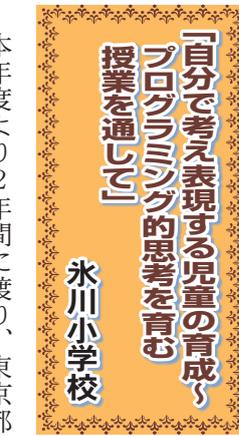
「持久走検定」と合わせて、児童がそれぞれの目標に向かい、楽しみながら努力する姿が見られています。

この研究を通して、児童が向かう課題を設定し、設定した課題を追求する姿が見られるようになりました。今後、古里小学校の研究を深めて参りたいと思います。

また、児童が毎日楽しく学校生活を送っているか、「満足度」を質問形式で測る「Hyper-Q-U」テストを実施し、その結果を分析・検討し、児童の心の理解に努めました。全体的には学校生活に満足している傾向にあることが分かりました。

楽しい学校を実現するための日常的な取組として、玄関には「ほっ古里(こり)コーナー」があり、将棋・囲碁・けん玉・コマ等を遊ぶスペースがつくられました。他にも各種検定が新たに設けられました。ALITのジェシカ先生と英語を話す「ジェシカ検」、「古里小けん玉検定(けんけん)」、従来の「なわとび検定」や「持久走検定」と合わせて、児童がそれぞれの目標に向かい、楽しみながら努力する姿が見られています。

な「焦点化」「視覚化」「共有化」をキーワードにして、毎回の協議会で職員同士が意見を重ねました。職員室後方のテーブルでは、職員が日常的に授業の打ち合わせや検討をする学校になっています。

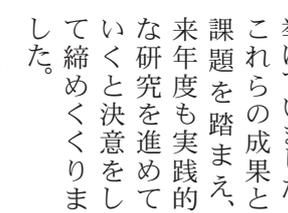


本年度より2年間に渡り、東京都教育委員会プログラミング教育推進校の指定を受けました。この1年、プログラミング教育について、連携企業と提携し、実践的な研究を進めてきました。去る1月25日には、公開授業や研究主任の口頭発表という形で、多数のご来校者のもと、発表会を実施しました。

発表会当日は、1・3・5年生が公開授業を行いました。1年生はコンピュータを使わない授業(アンプラグド)を行いました。生活科の単元で、冬遊びをどのような順番で行えばより良く遊びができるか、計画的に考えていく内容でした。付箋紙や活動カードを使い、「順次処理」適切な順序を考えることで、プログラミング的思考の育成を目指しました。3年生は、総合的な学習の時間で、タブレット端末を通して、初歩的なプログラミングを行う授業(プラグド)でした。自分が意図した動きになるようメモを基に考え、修正するべき部分を整理し、順を追って論理的に考えることができました。5年生は、外国語活動で、主体的にプログラミングを体験するために、ペアで協力してロボットを動かす活

発表会当日は、1・3・5年生が公開授業を行いました。1年生はコンピュータを使わない授業(アンプラグド)を行いました。生活科の単元で、冬遊びをどのような順番で行えばより良く遊びができるか、計画的に考えていく内容でした。付箋紙や活動カードを使い、「順次処理」適切な順序を考えることで、プログラミング的思考の育成を目指しました。3年生は、総合的な学習の時間で、タブレット端末を通して、初歩的なプログラミングを行う授業(プラグド)でした。自分が意図した動きになるようメモを基に考え、修正するべき部分を整理し、順を追って論理的に考えることができました。5年生は、外国語活動で、主体的にプログラミングを体験するために、ペアで協力してロボットを動かす活

本年度より2年間に渡り、東京都教育委員会プログラミング教育推進校の指定を受けました。この1年、プログラミング教育について、連携企業と提携し、実践的な研究を進めてきました。去る1月25日には、公開授業や研究主任の口頭発表という形で、多数のご来校者のもと、発表会を実施しました。



動を取り入れたプラグドの授業を行いました。自分たちの意図した動きを実現するための命令を友達とともに考え、試行錯誤をすることで、「順次処理」や「適切な順序を考える」ことを意識し、プログラミング的思考の育成を図りました。

研究主任の口頭発表では、各教科等において、児童にプログラミング的思考を意識させたことで、順序立てて考える大切さや上手いかなかった際にどこまで戻って考えればいいのかなど、日常的に考えることができるようになったこと、プログラミング教育を推進するための教材が整ってきたことを成果として挙げていました。一方、教科の目標とプログラミング教育の目指すものの差をどう埋めていくのかを課題として挙げていました。

これらの成果と課題を踏まえ、来年度も実践的な研究を進めていくと決意をまとめて締めくくりました。

動を取り入れたプラグドの授業を行いました。自分たちの意図した動きを実現するための命令を友達とともに考え、試行錯誤をすることで、「順次処理」や「適切な順序を考える」ことを意識し、プログラミング的思考の育成を図りました。

研究主任の口頭発表では、各教科等において、児童にプログラミング的思考を意識させたことで、順序立てて考える大切さや上手いかなかった際にどこまで戻って考えればいいのかなど、日常的に考えることができるようになったこと、プログラミング教育を推進するための教材が整ってきたことを成果として挙げていました。一方、教科の目標とプログラミング教育の目指すものの差をどう埋めていくのかを課題として挙げていました。

これらの成果と課題を踏まえ、来年度も実践的な研究を進めていくと決意をまとめて締めくくりました。

東京都小学生科学展

今年度の東京都小学生科学展は、古里小学校6年生の小野家百合子さんが奥多摩町代表として参加し、研究発表を行いました。

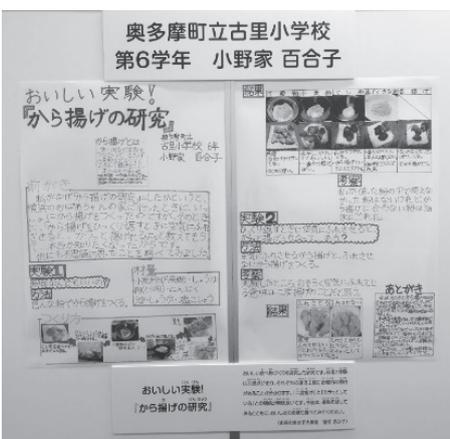
科学展は1月11日から14日の4日間、日本科学未来館にて開催され、小野家さんは13日の午後に発表という日程でした。テーマは、『おいしい実験！「から揚げの研究」』です。本研究は、小野家さんが夏休みの自由研究で行ったものです。研究のきっかけは、横浜のおばあちゃんのお家に遊びに行つて一緒にから揚げを作ったときに「から揚げをひっくり返すとカラッと揚げられるよ。」



と教えてもらったことが頭に残り、本かどうか調べたくなったからというもの。このように生活の中から湧き出た素朴な疑問を調べようとする姿勢が素晴らしいと思います。

日本科学未来館での発表は、スライドやレーザーポインターを使い、参観者も多く、緊張してしまつような雰囲気でした。しかし小野家さんは、研究テーマから研究の方法、実験の結果から考察までを、会場を見渡しながら笑顔で堂々とプレゼンテーションをしていました。とても分かりやすく、素晴らしい研究発表でした。

古里小学校の代表として発表を見事に行つた小野家さんですが、本校では高学年を中心に理科にとっても興味をもち、調べたり、まとめたりすることを楽しんでいきます。今後も学校全体で、理科を楽しく学んでいきたいと思っています。



岩原移動教室

奥多摩中学校2年生



昼食後、早速スキー講習に入りました。雪が深々と積もる中でスキーに苦労していましたが、後半には初級班がリフトに乗ることができるようになる等、全員がスキー技能を身につけていきました。

夜、湯沢町観光協会の方に、観光への取り組み等についてお話を伺いました。降雪量以外は同じような環境にある湯沢・奥多摩両町ですが、観光客数に大差がある現状を知った生徒にとっては、これからの総合的な学習の時間に生かすことができそうです。

2日目も降雪の中、インストラクターの先生方が、生徒各自のレベルに合わせてさまざまなコースに連れて行き、生徒も積極的に挑戦し、スキーレベルを上げることができました。

3日目は待望の快晴。山頂から湯沢町全体を見渡せる絶景に大変感動しました。また、快晴下でのスキーの素晴らしさも体感できました。

昼食後、岩原と別れ、お土産を購入しました。新潟のさまざまなお土産に目移りしつつ、誰に何を買おうか真剣に考え購入する姿に、生徒の優しさを感じました。

宿舎のガーデンクラスでは、スキー道具等だけでなく、暖かい部屋や温泉、そしておいしい食事を準備していただきました。学級目標の「挑戦」通り、さまざまな事に挑戦し充実した時間を過ごすことができました。

この貴重な3日間をもとに、新たな学習・活動に挑戦していきたいと思えます。

今年はや予定通り出発することができました。残念ながらインフルエンザ等で8名が参加できず、18名での参加となりました。1日目、実行委員長の挨拶では2年生の学級目標の「挑戦」を掲げて、色々なことに挑戦しようという言葉がありました。快晴だった関東地方から、関越トンネルを抜けると、断続的に雪が降り続け、数メートル積雪のまさに「雪国」。バス車内から見える雪景色や、豪雪地帯ならではの生活環境（家の玄関が高い位置にある事、道路に水を散布している様子など）に感動していました。バス降車後の雪道の歩行は慣れない様子でした。

英語教育の充実に向け

奥多摩町では、「広く国際的視野をもった町民の育成」を教育目標に掲げています。この実現に向けて、今年度から、オーストラリアより、2名の講師を小学校に派遣し、子どもたちと共に学校生活を送っています。外国語活動の授業において、外国語指導助手（ALT）として、英文や英単語を音読したり、英語で話しかけたりして、担任教員による指導のサポートをしています。学校行事や休み時間には、子どもたちと活動を共にしたり遊んだりして、自然と英語に接する機会ができています。異国の地から来た人と、いつでも触れ合える環境ができたことが、子どもたちの国際的視野を広げることにつながると考えています。



子どもたちが楽しんでいます

〈ティン・ジェシカ〉



私は、古里小学校のALTです。1年生から6年生まで、英語の授業があります。放課後英語教室も担当しています。いろいろなアクティビティをしています。例えば、歌を歌ったりゲームをしたり本を読んだりします。いつも楽しいです。また、毎朝小学生と一緒に、英語の放送を流します。奥多摩の子どもは英語に興味があるのがうれしいです。これから、英語の指導を頑張ります。

〈ティガン・レッドファーン〉



今年度の4月から、水川小学校で勤めている、外国語の先生のティガン・レッドファーンと申します。毎日、外国語の授業だけではなく、国語、算数、体育の授業にも参加しています。水川小学校の子どもたちは、とても元気で、勉強と遊びに頑張っています。これからも、学校の授業行事、遊びと、いろいろなことに頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

放課後英語教室

英語教育の充実の一環として、今年度6月から、小学生全学年を対象とした放課後英語教室を開催しています。学校の授業が終わり、ランドセルを持って英語ルームに直行して、英語教室が始まります。

指導者には、幼児・小学生を対象に10年以上にわたり町の英語教室の講師を務めていただいていた、奥多摩町在住の講師を招いています。オーストラリアから来日している各校のALTもサポート役として一緒に活動しています。英語で書かれた絵本を読んだり、英語の歌を手遊びを交えて歌ったりして、楽しみながら英語に触れることができています。12月には、クリスマスソングを英語で歌い楽しみました。



保護者の皆様へのアンケート調査

から、英語教室への満足感、期待感を感じているところです。一方で、「実施回数が少ない」「もっと英会話を取り入れてほしい」等のご要望もいただき、来年度以降の内容の充実に生かしていきたいと考えています。英語の発話量を増やす内容の充実を図るとともに、実施回数増加も検討していきます。

年度が変わりましたら、あらためて英語教室への申込手続きを行いますので、多くの児童のご参加をお待ちしています。

〈来年度の実施曜日について〉
4年生が火曜日、5年生が木曜日の開催に変更になります。他の学年の変更はありません。
ご予約の調整をお願いします。

中学校特別支援学級の再開について

4月からの新学期より、奥多摩中学校にて、特別支援学級（知的・固定学級）が再開となります。

奥多摩町の特別支援学級は、古里小学校に、知的と情緒等の固定学級がそれぞれ開設されており、個性に合わせた少人数指導が行われています。特別支援学級への入級をお考えの方は、学校又は教育相談室までお気軽にご連絡ください。

【電話】(83)12340

奥多摩町教育相談室

子どもからの人権メッセージ発表会

昨年11月24日に福生市市民会館もくせいホールで開催された発表会で氷川小学校5年生の池田雅楽さんが人権メッセージを発表しました。その内容を紹介します。



《夏休みに考えたこと》

私は、夏休みに人権について考える機会がありました。夏休み中、インドネシアでアジア大会が開かれており、テレビやインターネットなどでそのニュースをよく見ました。

私は国によって得意な種目がちがうことがおもしろいと思ひ、オリンピックも含めて、どの国が、どんな競技が強いのかを調べてみました。

その中でアフリカの国があまり水泳が得意ではないことが分かりました。そういえば前回のリオデジャネイロオリンピックの時も黒人の選手は少なく、水泳に出た選手の大半は白人の選手だった気がします。なぜか黒人の選手が少なかったようです。なぜ黒人の選手が少なかったのか

かを調べてみるとインターネットに「昔、白人は黒人と同じ水の中を泳ぐのがいやで、黒人はあまりプールに入ることがなかった。その昔からのなごりで黒人でプールで泳ぐ人は少ない。」というような内容がかいてあり、びっくりしました。

私はそんな理由で黒人の水泳選手が少ないのは差別だと感じました。アフリカ系の人でも水泳が好きな人たちはたくさんいると思うし、そういう人たちが昔からの差別のなごりでオリンピックや世界の大会に出られないというのはどう考えてもおかしいと思います。

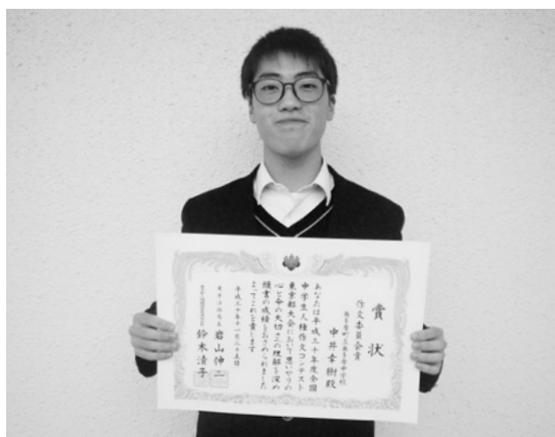
昔は世界で今よりも人種による差別があったと聞いたことがあります。私たちが大人になるころには国や肌の色でできることが限られてしまふとか、好きなことをおもしろいできなない、などということをおもしろいと思います。

次の東京オリンピックには無理かもしれないけど、いつか、どの競技にもあらゆる人種の人々が平等に競技に参加できる日が来るといいです。二年後の東京オリンピックでは、国や人種を超えて、選手たちを応援したいと思っています。



中学生人権作文

「全国中学生人権作文コンテスト」で奥多摩中学校3年生の中井幸樹君が作文委員会賞を受賞しました。その作品内容を紹介します。



《相手の受け止め方》

だれもが一度は使ったことがあるであろう「あだ名」。自分は名前から「なかこう」と呼ばれることがある。キヤッチーでわかりやすいので気に入っている。しかし、みんながみんな気に入る「あだ名」をつけられているわけではないことを私はある事件で知った。

私の所属しているサッカーチームで、起こった事件のことだ。このチームに通うほとんどの人は学校が終

わったら家に荷物を置いて、用意をして電車に乗り最寄り駅から置いてある自転車でグラウンドに向かうという通り方だった。家の近い人はいが遠い人はいつも急いでいる。そのなかの一人は自分だ。

そんな急いでいるなかで事件は起こった。いつものように着替えて練習前のミーティングに集まった。するとコーチはすごい剣幕で自分達にどなったのだ。「だれだ。他人の自転車を盗んでここに来たヤツは。」と。私は一瞬なんのこともわからずに「そんなことするやついんのかよ。」と思った。すると円のはじめにいた一人が恐る恐る手を挙げたのだ。そのチームメイトはあとでコーチに呼び出され、こっぴどく叱られ、その件を通報した持ち主に謝りに行ったという。翌日の練習に行くとその子は来ていて、普通にしていた。反省したのかななどと考えているとチームメイトがその子に「よー。泥棒。」や「泥棒、元氣。」などと話しかけていたのだ。私はその時「やめとけよ。」という軽い気持ちだった。

しかしその次の日の練習からその子は来なくなってしまうのだ。私は複雑な気持ちになった。言い過ぎと盗んだしという二つの気持ちで。それからチームで話し合い、よくないと気付き、その子を選んで謝った。お互いに気持ちを理解できて、チームは成長してその件は一段落ついた。

私はその件で相手を考える大切さ
と一言で人は嫌でつらい気持ちにな
るといふ一言の重さを知った。それ
からその件をきっかけに「あだ名」
について考えるようになった。なぜ
落ち込ませようと思ってもいけないの
に、落ち込ませてしまう「あだ名」
があるのだろうか。そこで私は「あだ
名」には大きく分けて二つの想いが
こもっているからだと考えた。

一つは相手がどうなるのか。面白
くなる。親しみやすくなるなどの気
持ちだろう。もう一つは自分がどう
なるかだ。「面白がつてやろう。」と
いう気持ちだと思ふ。

これらの気持ちは一見、自分と相
手を考えているという風に思えるが
よく考えてみるとまったく違ふの
だ。どちらもつける側の勝手な思い
だ。つまり相手を想っていないとい
うことだ。だから落ち込んでしま
う「あだ名」が生まれてしまうのだと
思ふ。

今の世の中はいじめが絶えない。
そしてその半分は口から出た言葉だ
という。「あだ名」も決して例外じゃ
ないと思ふ。だからといってつけな
いというは無理だ。そのため、相
手の受け止め方、気持ちに寄り添っ
て考える。相手の「名前」、「見た目」
などを大切にすることが重要だと思
ふ。このように優しい気持ちを少し
でも持てば「人権」を大切にできる
大きなことにつながると思ふ。

《学校式典のご案内》

卒業式	古里小学校 3月25日(月) 午前9時30分
	氷川小学校 3月25日(月) 午前9時45分
	奥多摩中学校 3月20日(水) 午前9時30分
入学式	古里小学校 4月8日(月) 午前10時30分
	氷川小学校 4月8日(月) 午前10時00分
	奥多摩中学校 4月9日(火) 午前9時30分

ご成人おめでとうございます

1月14日(祝)に福祉会館で、対象者39名のうち新成人
30名が出席し、成人の日の式典が行われました。式典、懇
親会と盛大に行われました。



教育相談室

【豊かな体験を】

相談員 原島 富子

氷川の三本杉の横道を下ると、日
原川と多摩川の合流する場所があり
ます。ちよつとした川原、水たまり
があり、親子連れがバーベキューを
したり、カヌーの初心者講習が行わ
れます。つり橋を渡り杉林の道を登
りながら、鳥のさえずりに耳を傾け、
さわやかな風を受け進むと、ほどな
く登山原に出られます。(ふれあい
森林浴コースになっています) 又、
海沢からの城山トンネル手前を右折
し進んで行くと清流の三釜の滝が現
われます。いずれも自然から得られ
るマイナスイオンにホッと一息でき
る、とても素敵な場所です。

古里地区では、川井駅を降りて青
梅街道とは反対側の道を大丹波川に
沿って進むと、あぜ道と隣り合わせ
に流れる川のせせらぎの音に雑念を
忘れさせてくれる、静かな時が流れ
ます。これも奥多摩の自然を体感で
きる素敵な場所です。

他にもまだまだ小川内地区や日原
地区にも自然が与えてくれる素敵な
場所はたくさんあると思ひます。

数年前の中学校統合委員会の席
で、「奥多摩には自然を体感できる
場所がたくさんあって、ひとりでも
多くの奥多摩の子どもたちに体験し
てもらい、そして、将来奥多摩に住

みたい、住み続けたい、と思うよう
になつてもらえたら」といふ私の
気持ちを話させていただいたことを
記憶しています。

子どもの頃の体験は、いつまでも
心に残り、その後の人生に良くも悪
くも影響を与えるでしょう。子ども
たちには、出来るだけ質の良い体験
をさせてあげたいものです。

平昌オリンピックスキュー
ト500m金メダリストの小平奈緒選手
は、小学校3年生の頃の学級目標「人
の失敗を責めない」が強く印象に
残つていて、失敗を受け入れフォ
ローし合う。人間なのでイライラす
ることもあるが、悪い雰囲気は伝染
するものなので、相手が傷つく言葉
や行動は慎む。人の気持ちを考えず
ぎるのではなく、でも相手を心にか
け、気遣いを忘れない。自分のため
になることはみんなのためにもな
る。小平選手はこれらのことを大切
にしてきましたとスポーツ誌に紹介
されていました。

このような小学生の時の体験が
あつて、現在も人の心を考えるそ
うした思いやり、フェアプレーの精神
を持つて活躍しています。

奥多摩町の子どもたちには、小平
選手のように、学校生活やさらに家
庭・地域の中で体験した全てのこと
を胸に、明日に向かって成長し、健
やかに育つてくれることを願つてい
ます。

郷土奥多摩(文化財)

東京都指定名勝

「海沢の4滝」

文化財保護審議会委員 堀口 行雄

海沢の4滝には、三ツ釜の滝、ネジレの滝、大滝、不動の滝がありますが、上流に位置する大滝と不動の滝を除けば、滝の近くまで舗装された林道が伸び、車があれば割と近くまで行かれ、奥多摩では馴染みのある滝で行かれた方も多いと思います。行かれたことのある方は、本稿は適当に読み飛ばしてください。

さて、都指定文化財の名勝・天然記念物部門で、現在名勝に指定されているのは、奥多摩町では「海沢の4滝」のみです。

大滝までは歩道(山道)が整備されていますが、最も上流に位置する不動の滝へは、大滝から谷沿いを少し戻り、転がり落ちそうな急斜面を登らなければ行けません。現在は踏み跡もほとんどなく、行くには危険を伴いますので紹介は割愛します。

残る3滝はそれぞれ異なった特徴を持っており、下流側から簡単に紹介していきます。

・三ツ釜の滝

落差は約18m、流れ出しの手前と中段に大きな滝壺があり、水は蒼く澄み、深さは楽に大人の背丈を超えています。



三ツ釜の滝(3段の流れ落ちる)

・ネジレの滝
落差は約11m、水の流れはひらがなの「く」の字形を呈し、新旧の滝壺と大岩が見事な景観を見せています。冬は周囲の岩肌から1mを越える見事な氷柱が見られます。

・大滝
落差は約23m、大きな一枚岩の狭い滝幅から豪快に流れ落ちます。寒い年の冬は全面凍結し、見事な水瀑を見せてくれます。



ネジレの滝(冬は岩に氷柱が発達)

歩道と言っても山道と同じで、石ゴロや階段、岩場等もあり、決して歩きやすいとは言えません。

次のネジレの滝へは、更に5分位の道のりとなります。ネジレの滝直前は岩場歩きとなります。岩が湿っている時は滑りやすいので注意が必要です。

最後の大滝へは、更に20分位の道のりとなります。ここからは完全に山歩きとなり、沢を大きく遠巻きながら途中急斜面の道もありますので注意しながら歩くこととなります。滝手前は沢に向かって下って行き、下りきった所に大滝が現れます。滝そのものは岩で形成されていますが、周囲には広葉樹林帯もあり、新緑や紅葉、夏の暑い時期は滝の飛沫で涼み、また夏の岩場ではイワタバコが



大滝(全面凍結時)



イワタバコ(夏の岩場に咲く)

あちこちで咲いています。そして冬は凍結と、四季を通じて楽しむことができます。

歩くと長い散策とはなりますが、時には滝巡りを楽しんでみませんか。